

春の風物詩

巡礼と市内の写し霊場

瑳訪 匠探

(25)

春のおとずれとともに全国的に風物詩として取り上げられるものに「遍路」と「巡礼」があります。白装束に菅笠、錫杖（しゃくじょう）とよばれるつえを手にした巡礼姿は、江戸時代から続くとされます。

四国八十八ヶ所は、弘法大師空海が修行したといわれる霊場をめぐるもので、「遍路（へんろ）」とよばれています。これに対し、「巡礼」とは、特定の神仏との縁を結ぶことを目的に観音菩薩、不動明王、薬師如来などがまつられる寺

やお堂をめぐることをいい、各地にあります。その代表的なものに観音めぐりがあり、

近畿圏の西国三十三観音、関東圏の坂東三十三観音、これと秩父三十四観音（埼玉県）を合わせた「百観音めぐり」が江戸時代に流行しました。

それらの「巡礼記」などを見つかっていませんが、人びとの巡礼によせる関心の強さを石塔により知ることができます。旧八日市場市域では、西国・坂東・秩父などの巡礼塔が20基をかぞえ、1800年以降に多く建てられました。

大寺（豊和地区）では、1816年に同村の3人と近隣村の13人の16人が「秩父巡礼」を終えて石仏を建てましたが、これは集団で巡礼したのでしょう。

東谷（平和地区）安養寺境内の石塔には「秩父 西国 坂東の百観音」に加え、山形県の出羽三

山「湯殿山 月山 羽黒山」と長野の「善光寺」、「日光大権現」供養塔と刻まれています。1830年に東谷村の角田、高橋、金杉姓の男女45人により建てられました。これは参拝記念というよりは、わざわざ遠国に行かなくても地元で霊験を得ることができ「写し霊場」としてまつられたものでしょう。

写し霊場の代表的なものとして、吉田（同地区）妙覚寺境内の「百観音」があります。これは西国・坂東・秩父百観音の本尊を一つずつ石仏として、1857年に吉田村をはじめ近隣6ヶ村ほどの個人や集団（講中）の寄進で建てました。これを見ると、いかに人びとの間で「百観音まいり」が盛んだったことがわかります。

現代とくらべ医療や日々の生活が充実していなかった時代に、信仰とレジャーを兼ねた「神仏まいり」は人びとにとって欠かせぬものだったのだでしょう。

今回は紹介できませんでしたが、「四国八十八ヶ所」の写し霊場も市内にあります。

問八日市場図書館



市内の代表的な写し霊場。妙覚寺境内の「百観音」（吉田地区吉田）